
東方儚々抄 ~ Holy war at the fantasy end.

黒白

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

東方儚々抄〜Holy war at the fantasy
end.

【Nコード】

N7320P

【作者名】

黒白

【あらすじ】

自分自身への謎へと立ち向かう少年と、それを取り巻く幻想郷の物語……。

はじめに

まず、手始めに。

星恋歌でもお話したようにトウホウボウハクシヨウ東方儚々抄は

原作に關係するものではなく、黒白が妄想によって生み出した一つの副産物です。

東方Project、及び上海アリス幻樂団様の作品には一切關係ありません。

また、あくまでも二次創作小説なので、原作から考えるとありえない展開や

設定との矛盾点が生じる可能性もあります。

また、黒白の文は酷いです。

以上の事が許せる方に推奨します……。

それでは……。

マターリしていつてね！

P r o l o g u e N o . 1 (前 書 き)

第一章 「序」

P r o l o g u e N o . 1

其れは。

小さい頃の記憶。

ぼんやりながら、ハッキリと
ぼやけているのに、鮮明に。

覚えている。

父さんは、自分を売ったのだ。

父さんは、自分に愛を注いでなどくれなかった。

父さんは、自分を……

殺したのだ。

父さんは幼い自分に名前も付けずに、
自分に重労働をさせた。

一日の内、休憩は全部合わせて3時間。
それ以外はずっと、肉体労働。

その時、 齢8歳。

父さんは、自分を働かせて、武士と云う良い身分に身を置きなが
ら、
自分に労働させて、自分ばかり利益を得た。

俺は、アイツの…何なんだ。

憎い。

憎い。

憎い憎い憎い憎い憎い！！

それは憎悪。

身が震えるほどの嫌悪感。

最低最悪最凶最猾。

……コロシテヤル。

あんな奴、何処が父親なんだ？

俺は偉い偉い殿様の所でずっと働いていた。

苦痛だ。

妬ましい。

妬ましい。

妬ましい妬ましい妬ましい妬ましい妬妬妬妬！

暖かい所で。

“正室”の子等と笑って暮らす、あのクソヤロウが殺したいほど妬ましい！！

…コロシテやる

俺はアイツの為に働いてきた。

自分がもう、どれだけ骨と皮だけだかも解らない。

それでも、ただ黙って……黙々と。

そんな時、アイツは。

その、俺が仕えていた偉い人と共に、

アイツは自分の利益のために、アイツはアイツはアイツはアイツは

アイツは俺と偉い人が泊まってた寺に夜遅く火矢を放って燃やした。

俺ごと。

寺に宿泊してるとき。 人は、兵は少なかった。
だから、アイツは狙った。

力の乏しい奴らしかいなかったんだ……。

誰も護れない。

主人を護れない。

炎もかなりの勢いを付けてしまい、
最早、寺の中からの脱出は不可能だった。

そして、俺はその偉い人から人質に取られた。
喉元には、小刀が当てられている。

その偉い人は、お前の親父が呼びかけに応えさえすれば開放する、
とってくれた。

でも、アイツは止らない。一直線に本堂へと向かった。
そして、アイツが扉を蹴飛ばした。

何年ぶりに見た、アイツの顔だろうか。

そんな事思う間もなく、

…… 其処で、記憶が途切れた。

其処で、自分は首を刳られ死んだのだ。

Prologue No. 2

昼下がりの午後。

昼下がりの午後。

街は、下校する生徒が多く行き交う。

何故なら、今日は私立高校の終業式。
終業式なのだ。

そんな中、やはり周りと同じように下校する少年少女らグループが
居た。

『ウウバラ シンヤ
上原慎哉』
『アイバ テルヨシ
相場輝義』

二人は、中学からの同級生であり、そして親友であった。
そして、……悪友だった。

『クロサワ マドカ
黒澤円』
『イズモ アカネ
出雲茜』
『シノザキ スバル
篠崎昂』

この3人は、クラスの中でもかなり仲の良い、友人である。
この5人は、いつも固まって、遊んでいた。

……女子陣の中では、出雲茜だけがこう……不思議っ娘と言つか、

何とも言えない子なのだが…悪い奴では無い。

そして、そんな5人の下校。

円「ねえ、明日から何しよっか」

この5人の中で二番目に元気の良い円がその場の全員に明日の予定を提案しようとする。

それはそうだ、何しろ明日からは夏休み。

全ての。人類全ての学生の夢の一ヶ月。
しかし……。

慎哉「馬つ鹿、まだ早えよ」

自分 もとい、青年はぴしゃりと其の言葉を否定した。

少し棘があるが、其れはお互い気にしない。なにしろ、円は幼馴染だ。こんな事、今更気にしない。

輝義「おっ、うわらば……何か考えでも？」

悪友が俺を変な呼称で呼んで来る。コイツ……シバいたろうか。

慎哉「俺のことを“うわらば”と呼ぶんじゃない、何処の世紀末だ……しかもヤラレ役かよっ!？」

よし、正確な突っ込みだ。

昴「ねえねえ、何?何? 何かあるの?」

慎哉「いや? 流石に案を出すのはまだ早えだろう、と違ってなあ」

一番目に元気の良い、昴に受け答える。

其の言葉を発した瞬間、円が物凄い勢いで迫ってきた。

円「甘つつつついいいい！！！！ 塩より甘い！！！」

慎哉「塩は甘くねえよ！？」

そんなツツコミには目も暮れずに円は迫り続ける。

円「いい！？ 夏休みつてのはねえ！！ 長いようで短い、夢のようないヶ月なのよ！？」

円「気が付いたら“うは、もうあと三日で終わりじゃん……南無三

”なあああゝんて事も！ あり得るのよお！？」

慎哉「あゝっ！ 五月蠅い！ うるさい、うるさいぞッ！ 解った

！ そうまで言うなら今日はトコトン計画練り上げだ！！！」

茜「意外と簡単に折れるのね」

そう言い、慎哉は近くのファミレスを指差した。

ファミレス……『サイデリア』。

慎哉「つ…………疲れたぜ…………」

帰路に着く5人。

ファミレスを出た頃には、既に時刻は7時を周っていた。

一人。

一人、また一人。

結局、残ったのは家が近い慎哉と円だけ。

二人は、同じ方向に歩いている。

円「ご苦労様」

コイツとも、ある意味は腐れ縁だ。

幼い頃から、良く遊んで。

数々の思い出を作ってきた。

コイツは、勝気で、男勝りだけれども、何かと女の子らしい。

料理が得意だったり、……実はピアノとか弾けたり。

何かと女性的な所があるんだな……。――

慎哉「ふう……で？ 明日は何処だっけ？ 初日」

円「明日、初日は海に行くの。覚えててよ……」

夜。

二人は蒼い街灯に照らされる。

何処かで、蛾がバチリ、と光に燃えた音がした。

慎哉「そうだったけ？ ……うし、それじゃあ、今日は早く寝なきやな！」

慎哉は円の方を見ながらにこりと笑みを作った。
何だかんだいって、反発し合っていても仲は良い。高校生になっても。

円「うん！」

円も、飛びっきりの笑顔を作って見せた。
コイツは…… コイツも、俺の親友だ。

円「それじゃね〜」

慎哉「おう」

街の外れ。
道を分ける。

円は家の並々の中へ。

慎哉は、山へと。

慎哉の家は、神社なのだ。
由緒正しいとか、何とか。

ああ、そうだ。

先程から語ってる友人の記憶だったり、過去の思い出。
全部、俺の頭の中に入ってる“情報”からだ。

なぜなら

俺、上原慎哉は“一部の記憶が無い”から。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7320p/>

東方儚々抄 ~ Holy war at the fantasy end.

2010年12月30日23時07分発行